

新しい学習指導要領と 新版「書写」教科書

学習指導要領の改訂を受け、書写の教科書も大きく変わりました。
よりわかりやすく、より使いやすくなった新版教科書の具体的な特徴について、
編集委員の宮澤正明先生にうかがいました。



みや ざわ まさ あき
宮澤正明
山梨大学教育人間科学部教授、大東文化大学講師。1952年・静岡県生まれ。光村図書の小・中学校書写、高等学校書道の編集委員。
著書に、『書写なんでも百科第3・4巻』（岩崎書店）、『毛筆書写墨場必携』（日本習字普及協会）など。

Q1

平成二十四年度から完全実施される学習指導要領は、現行に比べてどこが変ったのでしょうか。

大きく三つのポイントが挙げられます。

- ① 三年生の学習事項が独立
- ② 行書の確実な定着を求める
- ③ 一年生と二年生の履修時間が同程度に

① 三年生の学習事項が独立

これは、今回の改訂でいちばん大きな

Q2

新しい学習指導要領で求められている「限られた時間での、行書の確実な定着」については、どのような工夫をしていますか。

各単元を段階的な「ステップ」構造にし、それを繰り返しながら学習を行うことで、基礎・基本の徹底が図れるようになっていきます。

また、行書の書き方の規則性・法則性ごとに漢字を分類し、汎用性のある書き方のポイントをまとめた教材を設定しています。一字ずつばらばらに覚えるのではなく、漢字の同じ部分ごとに分類して覚えることで、短時間で効果的な学習ができます。

さらに、なぞり書きや書き込み欄を随所に設定し、積極的に何度も書いて慣れる工夫も取り入れています。

変更点です。中学校国語科書写は、現行の学習指導要領では第一学年と第二、三学年の二つに分けられていましたが、新しい学習指導要領では、学年ごとに学習指導内容が示されました。

② 行書の確実な定着を求める

二年生に「目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。」という新しい学習事項が加えられました。日常生活での行書の活用を目指したもので、行書の習得が前提となります。三年生では「文字を効果的に書くこと」という学習事項が新たに加えられ、さらなるステップアップが求められています。

一年二単元

「行書を書くこと」の
ステップ構造例

①

「行書の特徴を知ろう」
行書の五つの特徴を知る

②

「点画の方向や形が変化するときの筆使いを知ろう」
行書の五つの特徴のうち、方向や形の変化を理解する

③

「点画が連続するときの筆使いを知ろう」
行書の五つの特徴のうち、連続を理解する

④

「書いて確かめよう」
ステップ1～3で理解したことを毛筆で確認する

⑤

「行書の特徴を確かめて書くこと」
ステップ1～4で理解したことを硬筆で確認する

規則性・法則性ごとに漢字を分類

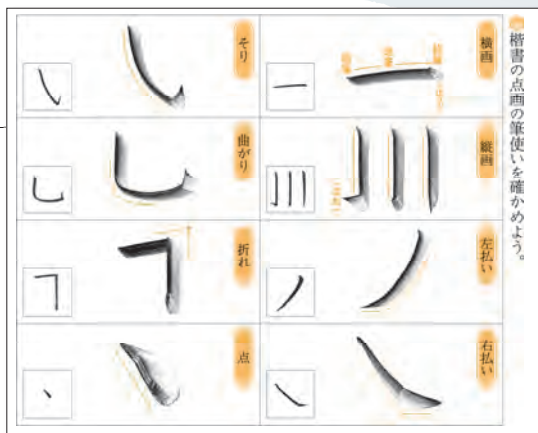
方向や形の変化

北	空四	木	立	大
短い左払い、左から右へ書く。	左払いや曲がりの形が変わる。	縦画の終筆は、次の画に向かってはねる。	点の終筆は、次の画に向かってはねる。	右払いの終筆は止める。
風 系	究 西	信 東	示 六	文 文
考 係	深 要	往 弟	赤 音	欠 欠

⑤ 行書の特徴を確かめて書くこと
行書の特徴を確かめて、なぞってみよう。

確かめよう

同じ部分ごとに分類したり、なぞり書きを—
したりすることで、効果的な学習が可能に



左払い

そり

穂先は左側から真ん中を通った後、上を通る。

右払い

曲がり

穂先は左側から真ん中を通った後、上を通る。

縦画

終く 止める。

払う。

はねる。

穂先は左側を通る。

横画

送筆 筆の軸は回さずに、同じ筆圧で運ぶ。

終筆 筆を止め、穂先の方へ押し上げる。

折れ

右上払い

点

1 漢字の筆使いを確かめよう

次の点画の筆使いは、どうなっているだろう。

●筆圧をどのように調節するよいか。

●穂先は、どこを通っているか。

Q5 小学校書写とのつながりはどう図られていますか。

まず、教科書の冒頭で、小学校で学んだ楷書の筆使いの特徴をもう一度視覚的に大きくまとめました。これまでは、簡単に図で示すだけでしたが、新版は言葉も添えて、丁寧に解説しています。知識と技能をリンクさせて、一つ一つの特徴をしっかりと確かめながら、中学校の学習のスタートが切れるのです。

Q6 これからの書写指導で、いちばん大事にしたいことはどんなことでしょうか。

書写教育の長い流れの中で、いわゆる技術偏重主義、あるいはお手本主義といわれるものが課題となっていました。もちろん、教科書の教材文字を見ながらひたすら書くということは、それなりの効果があります。しかし、限られた時間の中での効果や、「思考力・表現力・判断力」をつける学習の必要性を考えると、やはり授業の形は変わっていかなくてはならないと思います。

そのために必要なのは、コミュニケーションではないでしょうか。黙々と文字を書き続けるのではなく、グループで課題を作って討議しながら解決をしていくという授業も面白いですね。新しい学習指導要領で強調される言語活動の充実ということとは、実は授業の多様化と重なるのです。

新しい教科書には、そういう授業の展開がしやすい工夫をたくさん取り入れています。ぜひ、先生方ご自身も書写を楽しんで、授業を活性化させてください。